

# 宮城県看護協会仙台北支部 平成30年度交流会「診て・触れて・学ぼう」

2018年10月20日、宮城県看護協会仙台北支部の平成30年度交流会「診て・触れて・学ぼう」が開催されました。こちらの交流会は、昨年度初開催をした際に大変好評を頂いたため、第2回目として今年度も開催する運びとなりました。

交流会では、最初にスキルスラボの荒田先生よりスキルスラボの紹介があり、その後呼吸音聴診シミュレータ「ラング」を使用して肺音の聴診を行いました。次に患者シミュレータ「フィジコ」「ナーシングアン」で実施可能なトレーニングについて見てもらいました。続いて、導尿、吸引、CVポート、上腕採血、手背採血、ルート確保の各タスクトレーナーで自由に手技の練習をしてもらいました。最後は、3人1組のチームに分かれてBLSのトレーニングを行いました。胸骨圧迫の手の位置・テンポ・深さの評価が出来るシミュレータ（QCPRレサシアン）を使うことで、今までの自身のやり方ではテンポが速かった、深さが足りなかった等それぞれで自身の改善点に気付くことが出来ていました。

今回の受講者は、勤務先の診療科の都合、日常的に看護技術を実践するような機会がなかったり、手技に不安を抱えながらもトレーニングの機会がなかったりと、技術の研鑽を求めて参加して下さった方が多く見受けられました。

交流会では、他病院に勤める方との交流の他、実際にトレーニングが出来たり、スキルスラボの施設があることを知って貰う良い機会となりました。このような会があればぜひまた参加したいという声も多数頂いたので、次年度も更に良い交流会が開催出来ればと思います。

